メディア掲載のご紹介＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

日刊ケイザイ新聞「この人に聞く」に当社代表・稲田 二千武が掲載されました！

2016年3月7日(月) 発行

この人に聞く

ファミリーイナダ 社長 稲田 二千武氏

マッサージチェア 日本が生んだ唯一の文化的健康商品

ファミリーイナダ株式会社（大阪市淀川区、稲田二千武社長）は、マッサージチェア専門メーカーで、1962（昭和37）年に創業、来年55周年を迎える。現在、世界70カ国から愛用され、世界トップシェアを誇る。稲田社長は、高度経済成長時代に若くして成功したものの、社員の煙草の不始末で1億円かけた完成間近の新工場が全焼、社内のストライキによる労働争議、昭和38年の第1次石油ショックも影響し業績不振など相次ぐピンチをチャンスに変え、乗り越えてきた。

今回、日本ホームヘルス機器協会会長でもある稲田二千武氏に話を聞いた。

――1月末に話題になったマッサージ器で怪我が相次ぎ、国民センターが正しい使用を呼びかけました。

「ユーザーの間違った使い方によって怪我をする場合があります。今回、展示場で説明員が不在の時に骨粗しょう症のユーザーが操作したことで、骨にヒビが入りました。そのようなことが続き、消費者から業界に注意があり調査すると、展示場所での怪我が最も多いことが判明しました。そこで家電量販店様と協力し、係員には骨粗しょう症や高齢者への説明を義務付けました。人がむ場合でもそういった持病や障がいのある人に施すと怪我をします。機器操作時にはそういう症状の人は使わないで下さいとか高齢者にはスイッチの「弱」から始めてもらうような注意事項を製品に添付したり、展示場に看板を設置するなど注意喚起しています。利用者や高齢者のマッサージチェア使用が多くなったことで私どもも最善の注意を払わねばなりません」

――貴社の特徴は。

「マッサージチェアは〝日本が生んだ唯一の文化的健康商品〟と位置付けています。大阪・堺の川原さんが開発された、銭湯で10円を投入して使用するのが原点です。

マッサージチェアを研究する目的は、家庭用に一家に一台普及して少しでも予防医学の立場から喜んでいただいて健康になっていただきたいからです。昨年12月から〝ストレスチェック制度〟が義務付けられ、業務用ストレス解消コース搭載のメディカルチェア『インスパイア』を提供しています。働く人たちの働き方を変えたいという思いがあります。激務により精神的・肉体的酷使した身体をケア、ストレス解消することによってより一層、仕事の生産性が向上します。8つのメカと16のエアーセルで全身24箇所を一挙にもみほぐしますので、7分間のコースがひとの手によるマッサージの1時間半に相当します。日本一の自動車メーカーはじめ、大企業から次々と導入していただいております。社員が喜んで頑張ってもらわないと企業は成り立たないので、これからは必需品になってくるでしょう」

――経営者として心がけていることは。

「企業は永続的発展を目指すわけですが、日ごろからの経営トップの考え方、成功法が末端の社員まで浸透されているか、これによってずいぶん変わってくると思います。利益を出すためだけのトップの方針、企業体質があれば必ず墓穴を掘りますが、たとえ大企業でも倒産します。日本一の自動車メーカーはじめ、大企業をしたりすることはご法度です。悪いことでも素直な気持で膿を出していくことが大切です。例えば7、8年前に事故には見により、早めに不安を払しょくしたことで周囲から認められ家電量販店様も喜んでいただきましたし、ユーザーからも激励の言葉をいただきました。悪いことを隠せば隠すほど溜まり溜まって会社がおかしくなります。企業の寿命は40年間で98%が淘汰されている中、私どもはそういう経験がありましたから創業して54年を迎えることが出来ました。同業他社が36社あったのが今ではほとんどありません。経営方針がいかに大きいことかがわかります」

稲田二千武（いなだ・にちむ）氏 1940（昭和15）年、鳥取県生まれ。

記者会見を開き、『現時点で事故は発生していませんが、1万台を全て回収し交換いたします』と発表しました。その会様に不安を与えたことに申し訳ないと感じ、急きょ

目的にしているのにお客様が悪く不安に感じた』という声を聞きました。健康や幸せを届けることをいう声を聞きました。健康や幸せを届けることをでしたが、ある主婦から『せっかく良いものを買ったのに煙が出て気持ち

FAMILY INADA